

令和元年6月7日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11625

研究課題名(和文) 集学的治療を受ける直腸がん患者の外来における看護支援モデルの構築

研究課題名(英文) Construction of Nursing Support Model in Outpatient Department for Patients with Rectal Cancer who Receive Multidisciplinary Therapy

研究代表者

木下 由美子 (Yumiko, Kinoshita)

九州大学・医学研究院・講師

研究者番号：30432925

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：直腸がんでは肛門温存手術を受けた患者のQOLは、術後1カ月に最も低下し、12カ月に術前レベルに回復した。女性の術後1カ月の全般的QOLは、倦怠感・体重減少・排便の問題・将来展望に、男性は、倦怠感・体重減少・将来展望・役割機能の影響を受けていた。高齢者群は、全般的QOLに認知面が影響し、認知面には痛み・財政難・排便の問題が影響していた。術式別では、内肛門括約筋切除術群は、精神・社会面が不良で排便問題と相関していた。化学療法群は、術後12か月の身体面(痛み・不眠が影響)および社会面(経済的困難・痛み・倦怠感・将来展望が影響)が不良であった。これらの違いを踏まえたケアが重要であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

下部直腸がんに対して、近年では技術の発達と永久的人工肛門を造設する心理的負担が考慮され、内肛門括約筋切除術や超低位前方切除術が行われている。これらの手術では、便失禁・排便の不規則性などの排便障害の重症化や遷延化が懸念されている。本研究では、肛門温存手術を受けた患者のQOLとその影響要因について、性別・年齢・術式・術後化学療法の有無別に分析し、その看護支援の方策について考察した。

研究成果の概要(英文)：The QOL of patients with rectal cancer who underwent sphincter-saving surgery decreased most at 1 month after surgery. They recovered to preoperative levels by 12 months.

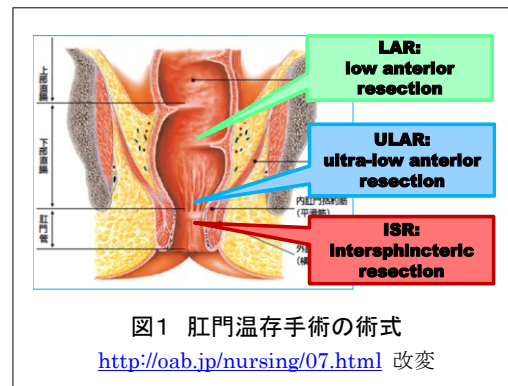
Female's global health QOL (GHS) at one month after surgery was affected by fatigue, weight loss, defecation problems and future perspective. Male's GHS was affected by fatigue, weight loss and role functioning. In the elderly group, GHS was affected by low cognitive functioning, and the cognitive functioning was affected by pain, financial difficulties and defecation problems. By type of surgery, the intersphincteric resection group's mental and social functioning was poor and correlated with defecation problems. The chemotherapy group had poor physical functioning which caused pain and insomnia, and social functioning which caused financial difficulties, pain, fatigue, and low future perspective at 12 months after surgery. It was suggested that nursing care based on these differences was important.

研究分野：がん看護

キーワード：QOL 症状マネジメント 機能障害 集学的治療 直腸がん 外来 看護モデル

1. 研究開始当初の背景

下部直腸がんに対しては、直腸切断術（人工肛門造設術）が標準治療であるが、近年では技術の発達と永久的人工肛門を造設する心理的負担が考慮され、内肛門括約筋切除術（ISR）や超低位前方切除術（ULAR）が行われている。これらの手術では一時的人工肛門の造設が行われ、人工肛門閉鎖後には便秘・排便の不規則性などの排便障害の重症化や遷延化が懸念されている。さらに排尿・性機能障害も起こりうる。患者は、排便障害が重症化することが多く、化学療法による有害事象が加わり、外来通院中に試行錯誤しながら日常生活を送っている。しかし、このような種学的治療を受ける患者の QOL の変化や影響要因を明らかにした研究はない。



2. 研究の目的

直腸がんで集学的治療を受けた患者の QOL の実態とその影響要因を分析することで、患者の QOL 向上を目指したケアが何かを明らかにして、効果的な看護実践への示唆を得ることである。

3. 研究の方法

直腸がんで以下の適格基準を満たす患者を対象に、自記式質問紙調査による前向き研究（術前、術後1・6・12か月後）を実施した。質問紙は、Organization for Research and Treatment of Cancer; EORTC QLQ-C30 version 3.0, EORTC QLQ-CR38 を使用した。

適格基準

- 1) 直腸がん（臨床病期 I-III）の診断で根治手術を受ける患者
- 2) 20歳以上の成人
- 3) 日本語でのコミュニケーション可能で質問紙に記入できる者

除外基準

術後合併症（縫合不全など）を併発した患者

4. 研究成果

肛門温存手術を受けた患者の QOL（EORTC C30）は、概ね術後1カ月に最も低下し、術後12カ月には術前のレベルに回復した。性差による比較では、術後12カ月目の社会面 QOL は、男性が不良で、全般的 QOL は、術後1カ月の女性の全般的 QOL は、倦怠感、体重減少、排便の問題、将来展望に、男性は、倦怠感、体重減少、将来展望、役割機能の影響を受けていた。年齢による比較では、高齢者群（60歳以上）は、術後1か月後に全般的 QOL と認知面 QOL が有意に低下し、全般的 QOL には認知面 QOL が影響し、認知面 QOL には痛み、財政難、排便の問題が影響していた。術式による比較では、ISR 群は、ULAR および低位前方切除群より有意に精神・社会面 QOL が不良で QOL には排便の問題と強く相関していた。化学療法の有無による比較では、化学療法群は、術後12か月目の身体面 QOL（痛み、不眠が影響）および社会面 QOL（経済的困難、痛み、倦怠感、将来展望が影響）が有意に不良であった。これらの結果より、性差、年齢、術式、補助化学療法の有無などにより、患者の QOL 影響要因は異なるため、看護者は、これらの違いを踏まえて QOL 向上を目指したケアを実践することが重要であることが示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計8件）

1. Yumiko Kinoshita, Rieko Izukura, Mami Miyazono, Shuntaro Nagai, Eiji Oki, Maki Kanaoka, Hisako Nakao, Akiko Chishaki, Ryuichi Mibu: Effect of age factors on health-related quality of life in patients with lower rectal cancer Y, *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 35 (4), 468-482, 2018. 査読有
2. Angela Sy, Eunjung Lim, Lana Sue Ka'opua, Merle Kataoka-Yahiro, Yumiko Kinoshita, Susan L Stewart.: Colorectal cancer screening prevalence and predictors among Asian American subgroups using Medical Expenditure Panel Study National Data. *Cancer*, 124 (S7), 1543-1551, 2018. 査読有
3. Miyuki Ushio, Maki Kanaoka, Yumiko Kinoshita, Satoko Maeno, Kimie Fujita Moderate-to-vigorous physical activity and the risk of stroke recurrence in patients with a history of minor ischemic stroke in Japan: a retrospective analysis. *Topics in Stroke Rehabilitation*, 25(8), 591-598, 2018. 査読有
4. Yumiko Kinoshita, Kathleen Nokes, Rieko Kawamoto, Maki Kanaoka, Mami Miyazono, Hisako

- Nakao, Akiko Chishaki, Ryuichi Mibu: Health-related quality of life in patients with lower rectal cancer after sphincter-saving surgery: A prospective 6-month follow-up study. *European Journal of Cancer Care*, 26(4), 2017. 査読有
5. Yumiko Kinoshita, Tomoko Ohkusa, Rieko Izukura, Akiko Chishaki, and Ryuichi Mibu: Effects of chemo- therapy on the health-related quality of life of Japanese lower rectal cancer patients after sphincter- saving surgery. *Journal of Psychosocial Oncology*, 35(4), 2017.
 6. Yumiko Kinoshita, Akiko Chishaki, Rieko Kawamoto, Tatsuya Manabe, Takashi Ueki, Keiji Hirata, Mami Miyazono, Maki Kanaoka, Masahiro Nakano, Tomoko Ohkusa, Hisako Nakao, Masao Tanaka, and Ryuichi Mibu: A longitudinal study of gender differences in quality of life among Japanese patients with lower rectal cancer treated with sphincter-saving surgery: a 1-year follow-up. *World Journal of Surgical Oncology*, 13:91, 2015. 査読有
 7. Yumiko Kinoshita, Maki Kanaoka, Akiko Chishaki: Changes of quality of life during the six months in the participants with lower rectal cancer after sphincter-saving surgery: suggestions for nursing care. *Japanese Journal of Applied Psychology*. 41(1), 1-9, 2015. 査読有
 8. Maki Kanaoka, Yumiko Kinoshita, Akiko Chishaki, Identification of the interaction patterns between adult living liver transplant recipients and donors during the preoperative hospitalization period and associated factors, *Japanese Journal of Applied Psychology*, 40(3),157-166, 2015. 査読有

[学会発表] (計 15 件)

1. 中尾久子, 木下由美子, 金岡麻希, 潮みゆき, がん患者の意思決定に関わる看護師の教育の背景と今後の学習ニーズ, 日本がん看護学会, 2018.01.
2. Hisako NAKAO, Yumiko kinoshita, Maki Kanaoka, Miyuki Ushio, Sakai Kumiko, Satoko Maeno, Kimie Fujita, Difficulties by Nurses Providing Decision-Making Support for Patients with Acute Care Hospital Cancer Patients in Japan, The2nd Asia-Pacific Nursing Research Conference, 2017.08.
3. 前野里子, 田中るみ, 木下由美子, 藤田君支, 2型糖尿病患者の日常生活における主観的身体活動量の妥当性 実測調査との比較日本糖尿病教育・看護学会, 2017.08.
4. 一ノ瀬喜美子, 木下由美子, 菊武恵子, 看護師のがん看護に関する困難感の経験年数別の特徴、および困難感と感情労働・コーピングとの関連, 日本がん看護学, 2017.01.
5. 中尾久子, 木下由美子, 金岡麻希, 潮みゆき, 新裕紀子, 梶原弘平, 樗木晶子, 看護師のがん患者の意思決定支援役割の必要性の認識とその実施状, 日本看護科学学会学術集会, 2016.12.
6. 潮みゆき, 藤田君支, 前野里子, 金岡麻希, 酒井久美子, 木下由美子, 中尾久子, 回復期から慢性期にある軽症脳梗塞患者の日常生活における身体活動量の実態, 日本看護科学学会, 2016.11
7. 前野里子, 藤田君支, 木下由美子, 2型糖尿病患者の身体活動量と HbA1c、糖尿病合併症および運動自己効力感との関連の検討, 日本糖尿病教育・看護学会, 2016.08.
8. 原田起代枝, 宮崎敬子, 立花由紀子, 和田美香, 小林より子, 木下由美子, オストメイトの QOL と自己適応に関する実態調査, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 2016.05.
9. 永井俊太郎, 木下由美子, 植木隆, 永吉絹子, 梁井公輔, 真鍋達也, 大塚隆生, 永井英司, 橋爪誠, 中村雅史, 下部直腸癌術後の排便機能および QOL の検討, 日本外科学会定期学術集会, 2016.04.
10. 新原亮史, 金岡麻希, 澤渡浩之, 吳茜, 木下由美子, 伊豆倉理江子, 孫田千恵, 濱田正美, 宮園真美, 大草知子, 宮田潤子, 貝沼茂三郎, 田口智章, 樗木晶子, 小児領域における看護師の漢方に対する関心と自身の健康状況に関する調査(第 1 報), 2016.02.
11. 吳茜, 金岡麻希, 澤渡浩之, 新原亮史, 木下由美子, 伊豆倉理江子, 孫田千恵, 濱田正美, 宮園真美, 大草知子, 宮田潤子, 貝沼茂三郎, 田口智章, 樗木晶子, 日本小児外科学会, 2016.02.
12. Yumiko kinoshita, Kathleen M. Nokes, Rieko Izukura, Kayo Toyofuku, Yuki Nagamatsu, Mami Miyazono, Health-related quality of life in patients with lower rectal cancer after sphincter-saving surgery: A prospective 6-month follow-up study, an oral presentation presented at the Oncology Nursing Society 40th Annual Congress, Orlando, USA, 2015. (Oral presentation)
13. 中尾久子, 木下由美子, 金岡麻希, 梶原弘平, 潮みゆき, 樗木晶子, がん患者に対する意思決定支援時に看護者が困難を感じた問題, 第35回日本看護科学学会学術集会, 2015.12.

14. 金岡麻希, 木下由美子, 宮園真美, 孫田千恵, 澤渡浩之, 濱田正美, 中畑高子, 樗木晶子, 日本看護科学学会学術集会, 2015.11.
15. 金岡麻希, 佐々木圭子, 木下由美子, 伊豆倉理江子, 大草知子, 中畑高子, 濱田正美, 宮園真美, 田原英一, 矢野博美, 井上博喜, 宮田潤子, 貝沼茂三郎, 樗木晶子, 大学病院に勤務する看護師の漢方医学への関心と認識に関する実態調査, 日本東洋医学学会, 2015.04.

〔図書〕 (計 1 件)

1. 中尾久子, 木下由美子, 金岡麻希, 梶原弘平, 潮みゆき, 【看護師 1 年目に必須の感染対策・倫理・医療安全】 看護倫理 新人看護師が直面する看護倫理に対する考え方と解決法, 看護のチカラ 20 巻 425 号 Page62-64, 産労総合研究所, 2015.04.

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：樗木 晶子

ローマ字氏名：(CHISHAKI, akiko)

所属研究機関名：九州大学

部局名：医学研究院

職名：教授

研究者番号 (8 桁)：60216497

研究分担者氏名：壬生 隆一

ローマ字氏名：(MIBU, ryuichi)

所属研究機関名：国際医療福祉大学

部局名：臨床医学研究センター

職名：教授

研究者番号 (8 桁)：20200107

研究分担者氏名：中尾 久子

ローマ字氏名：(NAKAO, hisako)

所属研究機関名：九州大学

部局名：医学研究院

職名：教授

研究者番号 (8 桁)：80164127

研究分担者氏名：宮園 真美

ローマ字氏名：(MIYAZONO, mami)

所属研究機関名：福岡看護大学

部局名：看護学部

職名：教授

研究者番号 (8 桁)：10432907

研究分担者氏名：金岡 麻希

ローマ字氏名：(KANAOKA, maki)

所属研究機関名：産業医科大学

部局名：産業保健学部

職名：講師

研究者番号 (8 桁)：50507796